

Crescendo

M E D I K I T A R T S C E N T E R くれつしえんど

2021.12
vol.146



「新 かばちゃといもがら物語」#6『火球』

現地視察レポート & 藤野友也インタビュー

ひなたのパロック#2

あなたが知らない「策士家」ヘンデル

県内各地にミュージックをお届け

「私たちの地元に“音楽”がやってくる!?」

'21みやざきの舞台芸術シリーズ

みやざきの舞台を盛り上げたい!!

火球



宮崎県延岡市にある島、島野浦島(しまのうらしま)。10月中旬、時折激しく雨が降るその日、劇作家の桑原裕子が島を訪れた。脚本執筆のため、2泊3日の現地リサーチだ。

高速艇に揺られること約10分。出迎えてくれたのは、島で「島民泊遊季」を営む傍ら、ツーリズム活動にも取り組む結城豊廣さんと、「地域おこし協力隊」として島に移住した岩田大志さんだ。高速艇の待合室のベンチに並んで座り、船を待つ乗客と間違われながら、お二人のことや島での暮らしのことを聞いた。

島野浦は、まき網漁業を中心に、マグロ漁や養殖など漁業が盛んな町だ。行き来する船や朝の市場、見渡す限り広がる養殖の生簀(いけす)、波が作り出す美しい海岸の造形……。東京在住の桑原はもとより、同行した劇場スタッフにとっても、見聞きする多くのものが新鮮だ。島には中学校までしかなく、ほとんどの島民は高校で島の外に出るのだという。私たちが出会い、話をうかがった方の多くは、そしてまた島に帰ってきた人々だ。誰もがオーブンであたたかい。時にはままならないこともあるのだろうが、それでも“今、ここで生きている”。島の人々の、そんな覚悟と誇りを感じた。



初日こそ雨だったものの、後半は天気にも恵まれた3日間。初日の夜は延岡の市街地へ戻り、2日目には夕刊ディリー新聞社の協力で、記者の方の取材に同行させていた(取材する記者を取材する桑原、を取材する記者……複雑だ)。その後再び海を渡り、3日目の朝を島で迎えた桑原は、短い滞在を惜しみながら、東京に戻ったのであった。

同じ10月の暮れ、メインビジュアル撮影のため、出演者の蕨野友也、浜田信也、菊池佳南、そして演出の立山ひろみが来県し、島を訪れた。

再び出迎えてくれた結城さん、岩田さんと一緒に島をめぐる。家々が並び建つ間に細い路地がたくさんあり、一歩足を踏み入れるともう、まるで迷路のようだ。皆きよろきよろしている。岩田さんにそう言うと、「僕も迷いました」と笑っていた。そのうち階段があらわれ、島唯一のお寺、福聚寺に着いた。



6名の出演者で紡ぐ今回の作品。またひとつ生まれる新しい物語に、ぜひご期待を。



ここからは、島の広範囲の集落が見える。島独特の光景はいくつもあるが、例えば多くの屋根が緑色に塗られ、ベランダのようなつくりになっている様や、道路のすぐ脇に海が広がっていることなどは、同じ宮崎県に住んでいても物珍しく感じる。主演の蕨野は都城市出身とあって、宮崎弁ですぐに島の人々と打ち解けていたのが印象的だった。



オファーがあったとき、どんな気持ちでしたか。

お話をいただいたとき、「新 かぼちゃといもがら物語」でこれまでに上演した作品を観たい、って思ったんです。それで昨年の『神舞の庭』を観させていただいて、まさに地方の抱える悩みや登場人物それぞれのバックグラウンドがしっかりしていて、こういう感じで物語を紡いでいたら面白いだろうなって。すぐ「やります、やらせてください」ってお応えしました。

先日、桑原さん作・演出のKAKUTA『或る、ノライヌ』をご覧になったそうですが、いかがでしたか。

人が抱えている問題で、言葉にできないことって日常生活に結構あると思うんですけど、それを台本にして舞台にする、ということがすごく上手な方なんだなって。みんなそれぞれ悩みがあって、言えないこと、抱えていることがある。それが舞台上で表現されていて、とてもレベルの高い作品を観てしました。その桑原さんの作品を、自分がこれから背負うのかと思うと、ハードルの高さを感じ、緊張しますね。

今回の『火球』も、島を出た人間、島に残っていた人間など、それぞれが抱えていることがある。僕の演じるサルという役も、東京で働いているけど島のことが気になって戻ってくる、という役で、それは僕自身が抱えている問題でもあって、ぴったりだなと思いました。

都城市出身の蕨野さんにとって、主人公のサルと重なる部分があるんですね。

僕は長男なので、両親のこと、家のこと、畠・田んぼ・山のことなど、これからどうするのか考えなくちゃいけない。けれども、じゃあすぐ田舎に帰って生活する、と決められるものでもない。上京したときから考えていたことなんですが、まさかこういった形で、役としてかえってくるとは思っていませんでしたね。

田んぼも土地も山も、代々受け継いできたわけじゃないですか。ご先祖様がつないできたもの。それを無下にはできないし、簡単には手放せられない。家の近くのお墓には、会ったことのないおじいさんたちの

蕨野友也さん インタビュー

宮崎の島、島野浦。今回劇作家の取材に同行した劇場スタッフから、方言が全然違う!と報告がありました。それには島の歴史が大きいに関わっています。宮崎県は広くて、いろんなところに行かせて頂きますが、どの地域もあり文化があり多彩。宮崎は生きている。人も土地も呼吸している。かっぽいもシリーズの醍醐味です。

シリーズ第6弾!主演に初めて宮崎出身の俳優をお迎えしたのも見どころの一つ。蕨野友也さんの演技にもご期待下さい。

極上の戯曲を描き続けてきたKAKUTAの桑原裕子さんが見つめ切り取ってくれた世界は宮崎県の宝といえる作品になると思います。ぜひ劇場に足をお運び頂き、体感頂けたらと願っております。



早い。今の時代、調べればなんでも出てくるけど、どういう人たちがいて、どんな建物のつくりで、どういう風の匂いがして、どういう夕日を迎えるのか、って行かないと分からない。地元の方たちとお話しして、どういう考え方をしていて、どういう歴史があったのかってことを、身体にいれなきゃなって。

今回、島に行って、島の人と話せる機会があつて良かったです。インターネットで何でも調べられる時代に、とてもアナログな考え方かも知れません。

上演に向けて

宮崎で舞台に出るのは初めてで、地元で舞台ができるというのは大きいですね。凱旋というわけではないんですけど、意味のある、責任感がより強くなる、という感じがします。地元の友達も観に来るって言ってくれているので、嬉しいですね。自分と同世代の方はもちろんですが、自分より年上の世代の方たちが観ても分かる作品にしたいなと思います。観ている方のそれぞの立場で、感じるポイント、共感してもらえるところが一つでも二つでもあるように、頑張りたいと思います。

公演情報・ 「新 かぼちゃといもがら物語」#6 『火球』

日時／2022年3月2日(水)～6日(日)

<平日> 開場18:30 開演19:00

<土日> 開場13:30 開演14:00

会場／イベントホール

作／桑原裕子 演出／立山ひろみ
出演／蕨野友也、浜田信也、菊池佳南、森崎健康、脇内圭介、大江泰子

ひなたのバロック#2

光輝くバロック音楽のイメージを代表する作曲家は、何と言ってもG.F.ヘンデル。しかし最近の研究で、その音楽には政治と関わる「策士」の痕跡も見え隠れすることがわかつてきました。ひょっとしたら、よく耳にするあの曲にも、知られざる事情があったのかも…? ヘンデル研究家の三ヶ尻正さんをゲストに、当時の政治状況のお話などもあわせて、ヘンデルの室内楽、オペラアリアなど古楽器による艶やかなヘンデル節をたっぷりとご堪能ください。



教えて! 三ヶ尻先生! ヘンデルのウワサ話

ポイント1 実は、ヘンデルには「表の顔」と「裏の顔」があった!?

バッハやスカルラッティと同じ年に生まれた、「音楽の母」ヘンデル。ちょうど公演日にあたる2月23日に337歳の誕生日を迎えるヘンデルには、「ハレルヤ!」コーラスの敬虔な宗教的イメージとはかけ離れた、政治的な顔があったと考えられるのです。

ポイント2 実は、『メサイア』には反政府勢力のメッセージが隠れていた!?

有名なオラトリオ『メサイア』には、幾つかの謎や不自然な点があります。当時の政治状況やテキストを丁寧に読み解くと、実は「ハレルヤ・コーラスの場面で国王が感動のあまり立ち上がった」という有名なエピソードも、もしかしたら正反対の意味をもつ行動だったのかもしれません。

ポイント3 実は、ヘンデルはスパイだった!?

英国で活躍したヘンデル。その多彩な活動を新たな視点から俯瞰すると、実は『007』よろしく、時の(女王陛下ならぬ)国王の肝煎り「エージェント」のような役割を担っていたのではないかという結論にたどり着きます。底知れない魅力を秘めたヘンデルの実像と、その音楽をお楽しみください。

公演情報

ひなたのバロック#2

日 時 / 2022年2月23日(水・祝) 開場13:30 開演14:00
会 場 / メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)
演劇ホール

曲目/G.F.ヘンデル:
オラトリオ『メサイア』第3部から「私は知っている」
歌劇『エジプトのジュリオ・チェザレ』から「ついに運命に涙はあふれ」
トリオ・ソナタ 口短調
シャコンヌ ト長調 ほか

出演者



大塚 直哉
(企画・監修/Chenbaro)



三ヶ尻 正
(ヘンデル研究家)



桐山 建志
(バロック・ヴァイオリン)



佐藤 裕希恵
(ソプラノ)



戸高 美穂
(フルート・トラヴェルソ)

使用する楽器



ひなたのバロックとは?

当劇場オルガン事業アドバイザーの大塚直哉が、多様なゲストを迎えてお贈りする、バロック音楽の新シリーズ。調和を重んじたルネサンスから、人の心を動かす多彩な仕掛けを工夫した動的なバロックの芸術へ…。ソナタやオペラなど、今私たちが親しんでいる音楽の要素の多くが誕生した時代でもあります。Chenbaroやオルガンなどの当時使用していた古楽器による演奏をお楽しみいただきながら、音楽、ときには音楽以外の芸術など、様々な分野のプロフェッショナルをゲストに迎え、「バロック」に対して理解を深めるトークコンサートです。



▲ひなたのバロック#1の様子

アウトリーチ事業 「ミュージック・シェアリング」

平成23年度からスタートした「ミュージック・シェアリング」も、**11年目に突入!**これまでに**1万人**を超える県民の皆さまに、ミュージック・シェアリングをお届けしてきました。2年を1期として活動している登録アーティストも、現在第6期生が活躍中です。今回は、その第6期生のお二人をご紹介します。

アウトリーチの様子



アウトリーチ事業「ミュージック・シェアリング」って?

コンサートへ行く機会や生の音楽に触れる機会の少ない方々に音楽をお届けすることを目的として、平成23年度より実施している訪問演奏活動です。県内の幼稚園、保育園、小・中学校、福祉施設等、年間約20か所を訪れて演奏を行っています。

緒方さんよりメッセージ

アウトリーチで演奏させていただき、CDやDVDではなく、実際に目の前で音楽を見・聴きすること、体験することの大切さを改めて感じています。又、世の中が大変なときだからこそ、音楽の持つ力が癒やしにも活力にもなると感じます。地域の皆さまと、アウトリーチを通して、音楽の素晴らしさを共有し、益々音楽を好きになっていただけますよう私自身も楽しみながら精進したいと思います。

アウトリーチで演奏した曲目

モーツアルト: さらさら星変奏曲
ショパン: /クラークOp.9-2
子犬のワルツ、革命
ラヴェル: 水の戯れ など



ピアニスト
おがた まきこ
緒方 真樹子さん

福岡県出身。福岡女子短期大学音楽科を経て、武蔵野音楽大学編入学・同大学院修了。現在、幅広く演奏活動を行っているほかコンクール審査員など後進の指導もおこなっている。



クラリネット奏者
こさか あっこ
小坂 厚子さん

延岡市出身。エリザベト音楽大学卒業。卒業後、1年間フランスに音楽留学。現在、延岡を中心に音楽活動をおこなっている。

令和4年度 アウトリーチ開催団体を募集中!

いつものみんなと、いつもの場所で、音楽で楽しいひとときをすごしませんか? 対象となる団体は、幼稚園、保育園、小・中学校、各施設等です。申込は、2022年1月18日(火)必着。詳しくは劇場HPの最新情報、または応募チラシをご覗ください。



▲ ホームページ



プロジェクト「の、まど」
劇場をとびだして、広く県民の皆さまに、音楽や演劇などの舞台芸術をお届けするべく、令和3年度から始めたプロジェクト「の、まど」。今回は、小林市へ!音楽の楽しさを存分に感じていただくJAZZのワークショップや、トランペット・コンサートを小林市で開催します!

お申し込みはこちら▶
<https://forms.gle/b7yM1qqY19firm6KA>



小林市出身の 奏者が出演!



2022年1月30日(日) 入場無料・事前申込制



ワークショップ「たたいてならして きこにn JAZZ」
時 間 / 10:00~11:45
会 場 / 小林市文化会館 エントランス
対 象 / 小学生(先着10名程度)

西諸牟で「気まぐれ」という意味



コンサート「西諸子パリへゆく」
時 間 / 13:00開演 ※公演時間約45分を予定
会 場 / KITTO小林
出演者 / 小崎輝岳(トランペット)、今屋早紀子(ピアノ)
対 象 / 0歳から入場可(先着50名程度)



コンサート「音楽でめぐる世界旅行♪」
時 間 / 16:00開演 ※公演時間約60分を予定
会 場 / KITTO小林
出演者 / 天辰直彦(フルート)、小崎輝岳(トランペット)、黒木麗巳(ピアノ)、今屋早紀子(ピアノ)
谷口潤実(バーカッショhn)
対 象 / 小学生以上(先着50名程度)

「みやざきの舞台芸術シリーズ」第3弾は、北村想の名作戯曲「寿歌～ほぎうた」。1979年に発表され、日本で一番上演回数が多いのではないかともいわれる本作を、俳優・モノ遣い・舞踏・音楽と多彩な出演陣でお送りします。今回、企画提案者の河内哲二郎さんにお話を伺いました。



演出・出演 河内哲二郎

宮崎市出身。大学時代にテント芝居から演劇を始め、劇団黒テントに10年間在籍後、フリーに。近年は演劇集団「風凍ダンス」などを中心に活動し、演出・俳優のほか、舞台監督などスタッフとしてもキャリアを積む。「新 かぼちゃといもが物語」#1「板子乗降臨」、#2「神舞の庭」、#4『幻視～神の住む町』に出演、またシリーズを通して宮崎弁指導をつとめる。

あらすじ

核戦争すべてが廃墟と化した、ある関西の地方都市。ミサイルが飛び交う中、リヤカーを引く旅芸人のゲサクとキヨウコがやって来る。そこに摩訶不思議な芸をあやつるヤスオも加わり、3人は焼きつくされた滅びの荒野を旅することに。ええかげんな芸と会話を繰り広げながら、彼らはどこに向かうのだろうか――。

なぜ『寿歌』を上演しようと思ったんですか？

きっかけは、平野甲賀さんご夫妻です。甲賀さんは、日本を代表するといつても過言ではない著名な装丁家、デザイナーですが、私が所属していた黒テントで劇団創立当初からポスターや舞台美術なども手がけていらっしゃって、劇団時代から大変お世話になっていた方です。「あんた演出できそしたらやってみたら」と演出の機会を初めて与えてくださったのも、平野さんご夫妻でした。お二人は東京から小豆島を経て高松へ移住されていたのですが、「高松の人が観たことのないようなものを創って上演してみないか」って話が2019年の冬頃にあったんです。お芝居だけでなく、ダンスや音楽といった、いろんな要素のあるもの。そこで、どんな作品が良いかなと考えていたら、高松だけでなく、宮崎や日本各地を巡ることをイメージしたときに、リヤカーを引くゲサクとキヨウコの姿がしっくりきたんです。『寿歌』の旅芸人の姿が、自分たちのこれまでの姿、これからの姿に重なるところもあり、これにしようって決まりました。それから、コロナ禍を経て、2020年の公演が中止になり、2021年の3月に甲賀さんが鬼籍に入られて、高松公演がなくなってしまい、この宮崎公演がスタートとなりました。

3人の俳優だけでなく、モノ遣い、舞踏、そして音楽と多彩な出演陣ですね。

演出プランを考えていたとき、イメージしたのが神楽なんです。神楽はお客様や自分のためではなく、神様に向かって舞う。お芝居もそういう側面があるんじゃないかなと常々思っていて。お客様を感動させる、泣かせるためではなく、作者の意図から離れて、登場人物のモデルというか、亡くなってしまった人や、大切な人を亡くしてしまった人たちの魂を鎮めるためにやる、そういう

演出
北村
想
河内
哲二郎

寿歌 ほぎうた

THEATRE CARAVAN!!!

'21みやざきの舞台芸術シリーズIII

演劇ユニット チックタックパーク presents

チクタクコント スポーツ



脚本・演出 濱田明良

今回も丁寧に丁寧にふざけたいと思います

演劇ユニット チックタックパーク
代表 濱田明良

宮崎市出身。様々な劇団に客演しながらも、演劇ユニット チックタックパークを旗揚げ。「演劇をもっと身近に」をテーマに作品を制作している。演劇以外にもTVやラジオなどメディアでの活動も行う。

「みやざきの舞台芸術シリーズ」第5弾は、「チクタクコント スポーツ」。これまで「赤」「青」「黄・緑」「黒」のそれぞれの色をテーマに、4年かけて繋ぎ続けてこられた「チクタクコント」の作品たちが、2021年、いよいよ五色出揃い完成したのはそう!五輪のマーク!スポーツの祭典のはじまりです!企画提案者であり、脚本・演出を手掛ける濱田明良さんにお話を伺いました。



どんなところを楽しんでいただきたいですか？

中で演劇ってなんなんだろうって考えるきっかけになっているのではと思います。ここから始めるしかない、あの頃は良かった、ではなく、また一から新しいことが始まるんだって考えることが健全なのではと思いまます。そしてこのタイミングで、私の生まれ育った宮崎で『寿歌』を上演できるということが、自分にとっては運命的なものを感じています。

宮崎から上京して、演劇に携わるようになって、幸運なことにこれまですごい人たちと一緒に創作活動をやってくることができました。『寿歌』を観にきたお客様にその経験を感じてもらえたうれしいです。「世界が少し広くなる」って、劇場のキャッチコピーにもありますけど、この作品をご覧になったお客様の世界が少し広くなるといいなあ、と。「なんじゃこら」となるかもしれません(笑)。

この作品は、ほんとうにいろんな風に受け取れる作品だと思うので、お客様それぞれに感じ取ってもらえたと思うのですが、単純にとにかく楽しいものにしたいですね。お芝居だけじゃなくて、音楽が好きな人も楽しめるだろうし、ダンス好きな人も、人形劇が好きな人も、小さいお子さんも楽しんでもらえるのでは。生じないと絶対に味わえないものの、舞台上でしか観られない、感じられないものにしたいなと思っています。

お客様にメッセージをお願いします。

コロナの影響で、演劇の意味合いが変わってきてているように感じています。演劇を続けていけるのかという不安もありますが、そのことが逆に、私たちが生きていく

公演情報・

'21みやざきの舞台芸術シリーズIII

THEATRE CARAVAN!!! 「寿歌～ほぎうた」

日時／2022年1月26日(水)、27日(木) 開場18:30 開演19:00 ※両日
会場／メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) 演劇ホール舞台上舞台

・作／北村想 演出／河内哲二郎 音楽・演奏／辰巳光英、関根真理
出演／河内哲二郎、吉田佳世、堀井政宏、塙田次実(モノ遣い)、高橋美実(舞踏)

2017年からシリーズとして、五輪の五色をテーマにコントをされていますが、なぜこのシリーズを始めようと思われたんですか？

普通作家さんって、描きたいことがあると思うんです。こんなキャラクターを出したい、こういう台詞を言わせたいとか。ぼく、それがなくって!笑 そんなぼくが、よくやる方法として、枠をつくるというか、ルールを縛るやり方をよくやるんです。それで、コント公演をやるってなったときに、なにかテーマがあったほうがいいなと。今でも覚えてるんですけど、2016年頃にこのシリーズを思いついで、当初は、2020年にオリンピックが開かれる予定だったんで、五輪の各カラーをテーマにコント公演をやって、2020年に総まとめを1回やれたらいいなあと…そんな感じではじめました。



そもそも、どうしてコントをやろうと思われたんですか？

少しずつ演劇を見る人は増えているようには感じますが、周りにもまだ演劇を見たことがないって言う人も多くて。どれだけ演劇の敷居を下げられるかってなったとき、コント公演というのもいいかなと思ったんです。それと、ぼくは演劇に携わっているものの、そもそもコントが好きなんです。子どもたちのころ、週末になると古本屋で100円とかになっているコントライブのVHSを買ってきて、書き起こしとかしてたくらいで。その両方があわせて、チックタックパークは基本コントをテーマにやっています。

シリーズのテーマは「色」ということですが、どのような内容だったのでしょうか。

例えば「赤」なら、「真っ赤な嘘」という言葉があるじゃないですか。なので嘘をつくお話をやりましたね。あとは「赤」といえばだるまが浮かんできて、だるまといえば、だるまさんが転んだがあるなど。じゃあだるまさんが転んだを、スポーツ競技みたいに、ほんとにアスリートがやってみたらどうなるか、みたいなコントがあります。「青」だったら、「青春」ネタをやったり、「地球は青かった」というガガーリンの言葉があるので、じゃあ宇宙飛行士のネタを書こう、とか。黒だったら、ちょっとブラックなネタを書いてみようとか。そんな感じで「赤」「青」「黄・緑」「黒」をテーマに、オムニバスのコント作品をつくりました。

今回の「チクタクコント スポーツ」は、これまでの総まとめ、のような感じになるのでしょうか。

これまで各回1本ずつは、スポーツコントをいれていたので、今回の公演では、これまでやってきたスポーツコントを、ぎゅっとまとめてみました。短い作品をいくつか上演するオムニバス形式なんですが、今回は9本を予定しています。これまでにやった作品をそのままプレーンな状態のもので上演するものもありますし、同じ作品とはいいつつも、ガラッと変わっているものもあります。

公演情報・

'21みやざきの舞台芸術シリーズV

チクタクコント スポーツ

日時／2022年2月12日(土)19:00開演 2月13日(日)13:00開演、17:00開演
会場／メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)イベントホール

・脚本・演出／濱田明良

出演／濱田明良、吉丸裕美、伊藤海、坂口浩平、川崎紫央里、新納愛未、進藤アヤノ、上杉一馬



それじゃあ、今までシリーズで公演を見ていない人たちも楽しめそうですね。もちろんもちろん!もともとコントなので!笑 前が分かっていない面白くないコントはもうコントではないので、全然楽しめると思います。

コントってきっと、演劇を見たことがない方も、気軽に来れる気がします。

コントなので、誰でも見やすいと思います。出演者は普段演劇をやっている人たちなので、いわゆるお笑いとはまたちょっとちがう、演劇ならではのテンポ感とか、間合いとか、お芝居の雰囲気とかあると思います。

ちょっとおこがましいかもしませんが、演劇を見たことがない人たちとの架け橋にもなれるといいなと思っています。



公演情報・

'21みやざきの舞台芸術シリーズV

チクタクコント スポーツ

日時／2022年2月12日(土)19:00開演 2月13日(日)13:00開演、17:00開演
会場／メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)イベントホール

・脚本・演出／濱田明良

出演／濱田明良、吉丸裕美、伊藤海、坂口浩平、川崎紫央里、新納愛未、進藤アヤノ、上杉一馬

劇場にゆかりのある方のコラム・メッセージをご紹介。

hello! けんげき vol.4 坂本 光三郎さん

文化ホールはまちをつくる…はず

夕刊デイリー新聞社本社（延岡市）から宮崎支社に転勤したのは、県立芸術劇場開館と同じ1993年。前年には「文化ホールはまちをつくるのか?」と題し



た連載記事で、県劇を造る意味をしつこく問うた。県が語るのは音響の良さやパイプオルガンの自慢。県内の文化施設と連携する考えはないように思えた。「ただのハコづくりだ」と批判する私に、そこまで言うなら自分で見て来い、と上司が言ったわけではないが転勤。おかげで県劇誕生からじっくり見ることができた。

1995年2月、第1回宮崎国際室内楽音楽祭の概要発表。アイザック・スターク氏の名前に「宮崎の音楽祭に本当に必要か?」と思った。しかし音楽祭初日、75歳のスターク氏と37歳のピアニスト、イエフィム・ブロンフマン氏との深みと躍動感に満ちたデュオに魅了された。「なるほど!」に変わった瞬間だった。

延岡に戻ってからは、当時の館長・青木賢児さん（現名誉館長）の講演会を何度も企画した。特に、難病を克服したピアニスト、レオン・フライシャーと夫人の日向公演は思い出深い。2008年の第13回音楽祭スペシャルプログラムだが、チケットの売れ行きは極端に悪い。そこで青木さんに延岡と日向でフライシャーについて講演してもらった。病と闘い、奇跡の回復を遂げた彼の人生を淡々と感動的に語り、聴講者を引き込んだ。効果は絶大で約1,300席の大ホールは満杯。「まさに奇跡のコンサートだ」と青木さんと喜び合った。

本気で語り掛ければ人は動く！ そう確信した。今年度から県劇が始めた「の、まど」プロジェクト、期待しています。

メディアキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)

自主事業公演チケット情報

2022年

1月16日(日)

開演 14:00

イベントホール

Let's和の音♪「一人勧進帳」

チケット発売中

【出演】杵屋邦寿（長唄三味線方）、織田麻有佐（企画監修・聞き手）

〈全席自由〉 一般:2,000円(1,800円)／U25割:1,000円

1月26日(水)

1月27日(木)

開演 19:00

演劇ホール舞台上
舞台

※当初の日程(11月17日・18日)から延期して開催いたします

‘21みやざきの舞台芸術シリーズⅢ

チケット発売中

THEATRE CARAVAN!!!「寿歌～ほぎうた」

【作】北村 想 【演出】河内哲二郎

【出演】河内哲二郎、堀井政宏、吉田佳世、塚田次実（モノ這い）、高橋美実（舞踏）

【音楽・演奏】辰巳光英・関根真理

〈全席自由〉 一般:2,500円／U25割:1,500円／高校生以下:1,000円／小学生:無料

2月12日(土)・13日(日)

開演 19:00 開演 13:00/開演 17:00

イベントホール

‘21みやざきの舞台芸術シリーズⅤ

チケット発売中

チクタクコント スポーツ

【出演】濱田明良、吉丸裕美、伊藤 海、坂口浩平、

川崎紫央里、新納愛未、進藤アヤハ、上杉一馬

〈全席自由〉 一般:2,500円／高校生以下:1,500円

2月20日(日)

開演 11:00

演劇ホール

※当初の日程(9月12日)から延期して開催いたします

チケット完売

おんがくのおもちゃ箱シリーズ Part.14 クラシック編

【出演】田村 緑（ピアノ）、田島千愛（ソプラノ）

〈全席自由〉 3歳以下:無料／4歳以上:500円

なかよしチケット:700円(4歳以上の2人1組)

振替前のチケットをお持ちの場合はお手元のチケットがそのまま有効となります。

2月23日(水・祝)

開演 14:00

演劇ホール

ひなたのバロック #2

【出演】大塚直哉（企画・監修／チェンバロ）、三ヶ尻正（ヘンデル研究家）、

桐山建志（バロック・ヴァイオリン）、佐藤裕希恵（ソプラノ）、

戸高美穂（フラウト・トラヴェルソ）

〈全席自由〉 一般:3,000円(2,700円)／U25割:1,500円

3月2日(水)～

3月6日(日)

開演 平日19:00／土・日14:00

イベントホール

「新 かばちゃんといもがら物語」#6 『火球』

チケット発売中

【作】桑原裕子 【演出】立山ひろみ

【出演】蕨野友也、浜田信也、菊池佳南、森崎健康、脇内圭介、大江泰子

〈全席自由〉 (日時指定)一般:3,500円(3,100円)／U25割:1,500円／
ペア割:6,000円(5,400円)

3月5日(土)

開演 11:00

アイザックスター
ホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート vol.170

チケット発売中

土曜日の朝はオルガンでプランチを…「オルブラ」

【出演】大平健介(オルガン)、伊豆謠子(司会・進行)

〈全席自由〉 4歳以上:500円／

なかよしチケット:700円(4歳以上の2人1組、前売りのみ)

3月27日(日)

開演 14:00

演劇ホール

第15回ミュージック・アカデミーinみやざき 2022 ファイナル・コンサート

チケット発売中

室内楽の花束

【出演】徳永二男、漆原朝子、川崎雅夫、毛利伯郎、三上桂子、横山幸雄

〈全席自由〉 一般:2,000円(1,800円)／U25割:1,000円／

親子割:2,500円(小・中学生+一般)

■ Attention(ご注意) ■

○記載情報は変更になる場合があります。○()内はくれっしょんど俱楽部会員価格です。○U25割は鑑賞時25歳以下が対象。その他の割引サービスの詳細は、劇場HPをご覧ください。○当日券が出る場合は、一般チケットのみ500円増になります。※一部公演除く ○託児サービス(有料・事前申込要)がご利用いただけます。※一部公演除く

お仕事の内容は？

舞台上の照明を担当しています。曲に合わせた照明の切り替えなどは、自身のピアノ経験を活かして譜面を読みながら対応します。お客様の一生の思い出に残る舞台と一緒に作りたいです！

劇場の未来をつくる なかで働く人

スタッフ紹介vol.5

劇場に行くとよく見かけるスタッフ。中の人がいるの？どんな仕事をしているの？ 今回はこのスタッフをご紹介！

名 前 はしもと

部 署 舞台照明部門

出身地 宮崎県

趣 味 バンド活動（ピアノ担当）

はしもとです！



ラック ラック ラックス
バンド名「Lack Luck Rucks」で活動中▲

お問い合わせ



宮崎県立芸術劇場
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER

〒880-8557 宮崎市船塚3-210
<http://www.miyazaki-ac.jp/>

TEL.0985-28-3208 FAX.0985-20-6670

Twitterとfacebook随時更新中！「フォロー」と「いいね！」お待ちしています。